

令和 3 年 5 月 14 日現在

機関番号：34315

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2020

課題番号：17K02050

研究課題名(和文) インドネシアの中央・地方レベルにおける選挙政治の変容と「庶民派」リーダーの台頭

研究課題名(英文) The Transformation of Electoral Politics and the Rise of 'Non-Elite' Popular Leaders in Indonesia's National and Local Governments

研究代表者

本名 純 (Honna, Jun)

立命館大学・国際関係学部・教授

研究者番号：10330010

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究を通じて、インドネシアにおける民主主義の発展過程を分析し、政治リーダーシップの変化を明らかにしてきた。政治の民主化から20年を経て、国民の政治に対する期待はどのように変容してきたのか。キーワードは「庶民派リーダー」の台頭であり、なぜ、この新たなリーダー像に国民の期待が集まるのか。また既存の政治エリートたちは、この庶民派リーダーたちとどう関係を構築してきたのか。これらの関心を中心に研究を進めてきた。その結果、庶民派リーダーの台頭に対する既存エリートの巻き返しというバックラッシュの力学を明らかにできた。これが最大の研究成果だと認識している。

研究成果の学術的意義や社会的意義

インドネシアでは、2014年以降、中央と地方でエリート支配を崩す大統領選挙と地方首長選挙が続いてきた。この中央と地方の選挙政治の変容を「民主化第三フェーズ」の誕生と位置づけ、各種選挙のインパクトをマクロな政治分析に発展させていく点に本研究の一番の学術的意義がある。本研究を通じて、インドネシアの民主化論に新たな知見を提供できた。また台頭する庶民派リーダーたちの政策的選好を体系的に理解することは、日本の対インドネシア外交ビジョンを考える上でも重要であり、その政策的インプリケーションを提示することに、本研究の社会的意義があると考えられる。

研究成果の概要(英文)：My research project has tried to elucidate the changing political leadership in Indonesia's democracy. The keyword is 'non-elite' popular leaders; why are these political leaders highly respected by the voters and how have the established elites tried to accommodate with them? These were the main questions in this study. Throughout the project, I could highlight the elite backlash in response to the emergence of non-elite leaders, and the move strongly indicates a trend of democratic backsliding in today's Indonesia. This finding is crucial in understanding the prospect of Indonesia's democratic stability.

研究分野：政治学

キーワード：インドネシア 選挙 政治リーダー ポピュリズム 民主化 権威主義

## 1. 研究開始当初の背景

インドネシアは、スハルト大統領による長年の権威主義政権が 1998 年に崩壊し、その後、政治の改革を進めながら 5 年に一度の議会選挙と大統領選挙を民主的に平和裏に実施してきた。まず 1999 年に初の民主選挙を行い、選出された議員やワヒド新大統領を中心に、様々な民主化政策を進め、権威主義体制との決別を方向付けた。これが「民主化第一フェーズ」と言えよう。

その後、2004 年に大統領の直接選挙、そして 2005 年に地方自治体のリーダーも直接選挙で選ぶ制度が導入された。これによって、間接的に選んでいた大統領や地方首長が、国民の票で選ばれるようになり、国政も地方政治も「有権者本位」の選挙が制度化するようになった。これは民主主義の大きな前進であり、「民主化第二フェーズ」として位置づけられよう。そしてこの時代に台頭したのが、2004 年の初の直接大統領選挙で選ばれたユドヨノ大統領であり、地方の名望家たちである。ユドヨノは、国軍幹部としての名声や、メガワティ政権(2001-2004 年)での大臣経験があり、「優秀なエリート」として国民の認知度も高かった。地方においては、バンテン州のソヒブー族や、南スラウェシ州のリンポー族、ランブン州のシャフルディン一族、マルク州のラトゥコンシナー族に代表される「地方エリート」たちが地元のパトロネージ・ネットワークを駆使して首長ポストを獲得するケースが多かった。

このようなエリートや名望家たちが直接選挙で選ばれる時代が約 10 年続いたが、2014 年のユドヨノ政権の終了とジョコ・ウィドド(愛称ジョコウィ)新大統領の誕生以降、インドネシアの政治はまた新たな時代に突入している。それが「庶民派」リーダーの台頭である。その代表ともいえるジョコウィは貧しい家庭に育ち、地方の木材会社のオーナーから政界入りした経歴を持つ。ソロ市長時代は社会保障政策に力を入れ、ジャカルタ州知事時代(2012-14 年)にも医療費や教育費の無料化などの政策を重視した。その「庶民派」知事が、大統領選挙では元エリート軍人と戦い勝利を収めた。他方、地方政界でも 2013 年にバンドン市長に選ばれたカミルや、2015 年に再選したスラバヤ市のリスマ市長など、市の環境美化に取り組む「庶民派」リーダーたちが今や絶大な人気を誇る。このことは、政治に「新しい風」が吹いていることを示している。それは「エリート政治」から「庶民派政治」への移行であり、おそらく「民主化第三フェーズ」と呼ぶことができよう。この「新しい風」を可能にしている選挙政治の変容を研究することは、インドネシアの今後のリーダー像を明らかにするだけでなく、民主主義の行方や外交政策(対日政策を含む)の方向を理解する上でもきわめて重要である。このような認識が、研究開始当初の背景にあった。

## 2. 研究の目的

インドネシアにおいて、2014 年に実施された大統領選挙と 2015 年に行われた全国统一地方首長選挙は、同国の政治リーダー像を大きく変容するものであった。それはひと言でいえば、従来からのエリート名望家ではなく「庶民派」リーダーの台頭である。このトレンドは、同国の民主主義の行方や外交政策の方向を展望する上できわめて重要な現象である。しかし、それについての本格的な研究はまだない。2017 年には再び統一地方首長選挙が 101 の自治体で行われ、新たな地方リーダーたちが続々と誕生する。2019 年には再び直接大統領選挙がある。本研究は、上記 4 つの選挙を連続的に捉え、なぜ選挙政治が変容し、新しいタイプのリーダーが中央と地方で誕生しているのかを分析することで、「民主化第三フェーズ」とも言える政治の地殻変動を解明する。「第一フェーズ」はスハルト長期政権の崩壊(1998)からの民主化移行期と位置づけ、それは 2004 年のメガワティ政権の終了までとなる。2004 年から 10 年に渡るユドヨノ政権下での政治安定の時代を「第二フェーズ」とした。そして本研究が着目するのが 2014 年以降の政治であり、この期間を「第三フェーズ」と考えた。この期間にみる民主政治の変容を政治リーダーシップの観点から分析することが、本研究の目的となった。

## 3. 研究の方法

本研究は、三年間を通じて、次の 3 つの調査課題を並列的に進めた。選挙政治の変容分析：SNS や世論調査、キャンペーン戦略、選挙コンサルタントの観察、庶民派リーダーたちのプロフィール：庶民派の定義、庶民派の類型、候補者経歴、そして彼らの政策的な動向に基づく「第三フェーズ」の特徴化：改革ビジョン、各種政策の観察である。

毎年度の研究活動サイクルは、おおよそ次のようなものになった。4 月～7 月：文献調査と現地調査プラン作成、8 月：現地調査(25 日間)、9 月～12 月：帰国後データ処理・調査結果分析・研究会(学会等)報告、1 月～3 月：成果論文の作成。

の文献調査では、これまでエリート支配が強かった地方の政治力学についての先行研究を

丹念にサーベイしていくと同時に、全国統一地方首長選挙の結果について新聞報道などを基に、どのような地方で庶民派リーダーが誕生したのかをマッピングした。その作業を通じて、現地調査を行う場所を選定した。の現地調査では、ジャカルタと地方を訪問し、インタビュー調査と資料収集に励んだ。インタビュー調査は、本名がこれまで最も得意としてきた調査方法で、対象者は、選挙立候補者、選挙コンサル、地方議員、メディア関係者、世論調査機関、地方政府関係者、地方大学研究者、選管スタッフなど。帰国後の研究は、収集資料の処理と分析からはじまり、首長データベース(DB)構築、研究ノートの執筆となった。これらの一連の研究活動を得て、研究成果の発信に繋げていった。

#### 4. 研究成果

本研究を通じて、発信してきた研究成果には、論文・著書、学会発表・研究会発表、メディア掲載などがある。とに関する主なものが以下になる。

##### 論文と著書

- (1) Jun Honna, "The Politics of Securing Khaki Capitalism in Democratizing Indonesia," in Paul Chambers and Napisa Waitookiat eds., *Khaki Capital: The Political Economy of the Military in Southeast Asia* (Copenhagen: Nordic Institute of Asian Studies, 2017) pp.305-327.
- (2) Jun Honna, "Japan's Post-Cold War Foreign Policy toward Indonesia," in James D.J. Brown and Jeff Kingston eds., *Japan's Foreign Relations in Asia* (London: Routledge 2017), pp.262-275.
- (3) 本名純「東南アジアにおける麻薬との戦い：ジャカルタの現場から」Synodos、2018年9月7日。
- (4) Jun Honna, "Civil-Military Relations in an Emerging State: A Perspective from Indonesia's Democratic Consolidation," in Keiichi Tsunekawa and Yasuyuki Todo eds. *Emerging States at Crossroads* (SpringerOpen, 2019), pp.255-270.
- (5) Jun Honna, "Indonesia: Dominance, Twilights, and Legacies of Power," in Volker Grabowsky and Frederik Rettig (eds.), *Armies and Societies in Southeast Asia* (Chian Mai: Silkworm Books, 2019), pp.235-269.
- (6) 本名純「インドネシア・ジョコウィ政権にみる情動エンジニアリングの政治」見市建・茅根由佳編『ソーシャルメディア時代の東南アジア政治』明石書店、2020年、pp.21-38。
- (7) 本名純「インドネシアにみるスーパーナチュラルなコロナ治療」立命館大学国際地域研究所・国際情勢解説2020年No.5、2020年7月6日。
- (8) Jun Honna, "Military Politics in Pandemic Indonesia," *The Asia-Pacific Journal/Japan Focus*, Vol.18, Issue 15, No.5, August 1, 2020.

##### 学会・研究会発表

- (1) "Pilkada DKI and the Politics of Right-Wing Network Populism," Seminar: Rise of New Politics in Indonesia: the 2017 Jakarta Gubernatorial Election, Center for Southeast Asian Studies, Kyoto University, 12 May 2017.
- (2) 「ジャカルタ州知事選挙をめぐる政治と今後の国政」経済講演会、東京三菱UFJ銀行ジャカルタ支店主催、Kempinski Hotel、2017年5月19日。
- (3) 「民主化定着期インドネシアにみるナショナリズムとグローバリズムの国軍政治」2017年度日本比較政治学会、成蹊大学、2017年6月17日。
- (4) 「東南アジアの苦悩～テロ組織の変容とテロ対策の政治」立命館土曜講座2017年7月1日
- (5) "Civil-Military Relations in an Emerging State: A Perspective from Indonesia's Democratic Consolidation," International Workshop on Emerging States and a Crossroads, GRIPS, Tokyo, 15 July 2017.
- (6) パネリスト「第3回アジア言論人会議～民主主義の試練をどう乗り越えるか」言論NPO公開フォーラム、国際文化会館、2017年9月4日。
- (7) 「インドネシア・3年目のジョコウィ政権：政治と治安と外交安全保障」国際情勢研究所、2017年9月15日。
- (8) "The Evolving Transnational Crime in Southeast Asian Waters: Trends, Responses and Prospects," invited speech, 2017 Taiwan International Symposium on Regional Security and Transnational Crime, organized by the Investigation Bureau, the Ministry of Justice, Taiwan, October 31, 2017.
- (9) 「民主化定着期インドネシアにみる反グローバリズムと右翼ポピュリズム」反グローバリズム研究会、立命館大学朱雀キャンパス、2017年11月24日。
- (10) 「International Accountability as Anti-Reform Strategy?: Politics of Security Sector Reform in Democratizing Indonesia」東南アジアにおける応答性の政治研究会、京都大学東南アジア研究所、2017年12月16日。

- (11) “Politics of Urban Anti-Crime Policies in Southeast Asia: A Case of Jakarta’s War on Drugs,” Workshop on Metropolitan Politics in Southeast Asia, CSEAS, Kyoto University, 20 January 2018.
- (12) “Supporting Indonesia’s Democratic Transition: JICA’s Contribution and Our Future Agenda,” Symposium on Indonesia-Japan Development Cooperation - “Building the Future Based on Trust, organized by JICA and Bappenas, Jakarta, 14 May 2018.
- (13) 「最近の政治情勢と大統領選挙の展望」日本インドネシア協会講演会、2018年5月25日。
- (14) “The War on Drugs and Intra-Police Dynamics in Indonesia,” International Seminar: Changing Political Dynamics of Military, Police and Militia in Indonesia, Thailand and Myanmar, Center for Southeast Asian Studies, Kyoto University, 2 June 2018.
- (15) 「アジアにおける越境犯罪を考える～違法伐採の事例」熊本大学・立命館大学共同セミナー「アジアの国境なき諸問題」熊本大学2018年7月20日。
- (16) 「2019年インドネシア大統領選挙を考える」インドネシアを考える会、国際文化会館、2018年7月31日。
- (17) “Toward Human Security 2.0” 7<sup>th</sup> Sustain Conference, Padang, West Sumatra, Indonesia, 29 October 2018.
- (18) “Jokowi’s TNI: Patronization, Factionalization, and Organizational Expansion,” Indonesia Workshop, Kyushu University, 19 November 2018.
- (19) パネリスト、「アジアや日本はどのような民主主義を目指すのか」第4回アジア言論人会議、言論NPO主催、ホテルオークラ東京、2018年11月22日。
- (20) “Mutual Love or Marriage of Convenience? Right-Wing Populism and Islamic Populism in Indonesia” Indonesia-Japan Bilateral Dialogue: Symposium on Commemorating the 60<sup>th</sup> Anniversary of Japan-Indonesia Diplomatic Relations, organized by CSIS-GRIPS, Bali, 29 November 2018.
- (21) “Rival of Extra-judicial Killings as Governance: Jokowi’s War on Drugs,” 第一回インドネシア研究懇話会・設立記念大会、京都大学、2018年12月16日。
- (22) 「プロジェクト2045：共通の政治目標について」第6回インドネシアを考える会、国際文化会館、2019年、1月17日。
- (23) 「2019年大統領選挙と政治の展望」三菱UFJ銀行ジャカルタ支店経済講演会、2019年2月13日。
- (24) 「2019年大統領選挙の分析と今後の政治の展望」日本インドネシア協会、講演会、2019年4月27日。
- (25) 「政治エリートの大統領選挙～分断と凝集のデュアルベクトル」インドネシア選挙セミナー、京都大学東南アジア研究研究所、2019年5月13日。
- (26) “Democratization and the Changing Face of Gangsters in Indonesia” Research Exchange Seminar, “Getting Legitimate? Implications of the Transforming Informal Actors,” College of International Relations, Ritsumeikan University, 11 June, 2019.
- (27) 「2019年インドネシア大統領選挙と政治・外交の展望」時事トップセミナー、シンガポール、2019年7月15日。
- (28) 「変容するインドネシアの政治～選挙・イスラム・民主主義」日本在外企業協会特別講演会、2019年11月15日。
- (29) 「ガバナンスとしての戦争～インドネシアにおける麻薬との戦い」人間の安全保障学会、2019年11月17日。
- (30) 「インドネシアの選挙政治と国際関係～イスラム・中国・ナショナリズム」日米中ASEAN研究会、2019年11月26日。
- (31) 「第二期ジョコウィ政権の政治～展望と課題」JAC-NNA セミナー、ジャカルタ、2019年12月6日。
- (32) 「コロナ禍のインドネシアとアンダーグラウンド」ジャカルタ菱友会、2020年7月15日。
- (33) 「コロナ禍のインドネシア政治」MUFG銀行ジャカルタ支店オンラインセミナー、2020年7月20日。
- (34) 「新型コロナ危機と東南アジアの民主主義」第85回政策本会議、東アジア共同体評議会、2020年9月28日。
- (35) 「コロナ禍のインドネシア政治」日本インドネシア協会月例講演会、2020年9月30日。
- (36) 「コロナ危機下のインドネシアにおけるパンデミック政治」国際地域研究所ウェビナーシリーズ、2020年10月9日。
- (37) 「新型コロナ危機下のインドネシア～国内政治と外交の共鳴」アジア政経学会2020年秋季大会、11月7日。
- (38) 「コメント報告～ASEANの視点を交えて」グローバル・ガバナンス学会第13回研究大会『全体セッション2：グローバル・ガバナンスの現在 コロナ禍への対応』2020年11月15日。
- (39) 「ジョコウィ政権のパンデミック政治」インドネシア研究懇話会第2回研究大会シンポジウム2「新型コロナウィルスとインドネシア」2020年11月29日。
- (40) 「コロナ禍のインドネシアにおける越境犯罪」インフォーマリティ研究会、2021年1月26日。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計25件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 本名純	4. 巻 No.4
2. 論文標題 東南アジアにみる新型コロナ危機の政治インパクト	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 立命館大学国際地域研究所・国際情勢解説	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 本名純	4. 巻 No.5
2. 論文標題 インドネシアにみるスーパーナチュラルなコロナ治療	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 立命館大学国際地域研究所・国際情勢解説	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Jun Honna	4. 巻 Vol.18, Issue 15
2. 論文標題 Military Politics in Pandemic Indonesia	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 The Asia-Pacific Journal/Japan Focus	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 本名純	4. 巻 11月号
2. 論文標題 東南アジアにおける新型コロナウイルスとテロリズム	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 治安フォーラム	6. 最初と最後の頁 47-53
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 本名純	4. 巻 2月号
2. 論文標題 ミャンマー政変から考えるインドネシア	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 月刊インドネシア	6. 最初と最後の頁 4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 本名純	4. 巻 5月
2. 論文標題 2019年大統領選挙で何がおきたか：分断と凝集の政治ベクトル	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 IDEスクエア	6. 最初と最後の頁 1-6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 本名純	4. 巻 6月6日
2. 論文標題 兵器化される情動反応 2019年インドネシア大統領選挙にみる選挙テクノロジーの影	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Synodos	6. 最初と最後の頁 1-4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 本名純	4. 巻 -
2. 論文標題 東南アジアにおける麻薬との戦いージャカルタの現場から	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Synodos	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計24件（うち招待講演 8件 / うち国際学会 5件）

1. 発表者名 本名純
2. 発表標題 コロナ禍のインドネシア政治
3. 学会等名 日本インドネシア協会月例講演会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 本名純
2. 発表標題 新型コロナ危機下のインドネシア：国内政治と外交の共鳴
3. 学会等名 アジア政経学会2020年秋季大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 本名純
2. 発表標題 コメント報告：ASEANの視点を交えて
3. 学会等名 グローバル・ガバナンス学会第13回研究大会全体セッション2：グローバル・ガバナンスの現在 コロナ禍への対応
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 本名純
2. 発表標題 ジョコウィ政権のパンデミック政治
3. 学会等名 インドネシア研究懇話会第2回研究大会シンポジウム2「新型コロナウイルスとインドネシア」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 本名純
2. 発表標題 政治エリートの大統領選挙 分断と凝集のデュアルベクトル
3. 学会等名 インドネシア選挙セミナー、京都大学東南アジア研究研究所
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 本名純
2. 発表標題 ガバナンスとしての戦争 インドネシアにおける麻薬との戦い
3. 学会等名 人間の安全保障学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 本名純
2. 発表標題 Supporting Indonesia 's Democratic Transition: JICA 's Contribution and Our Future Agenda
3. 学会等名 Symposium on Indonesia-Japan Development Cooperation, "Building the Future Based on Trust," organized by JICA and Bappenas, Jakarta (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 本名純
2. 発表標題 最近の政治情勢と大統領選挙の展望
3. 学会等名 日本インドネシア協会講演会 (招待講演)
4. 発表年 2018年



1. 発表者名 本名純
2. 発表標題 The War on Drugs and Intra-Police Dynamics in Indonesia
3. 学会等名 International Seminar: Changing Political Dynamics of Military, Police and Militia in Indonesia, Thailand and Myanmar, Center for Southeast Asian Studies, Kyoto University
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 本名純
2. 発表標題 Jokowi ' s TNI: Patronization, Factionalization, and Organizational Expansion
3. 学会等名 Indonesia Workshop, Kyushu University
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 本名純
2. 発表標題 Mutual Love or Marriage of Convenience? Right-Wing Populism and Islamic Populism in Indonesia
3. 学会等名 Indonesia-Japan Bilateral Dialogue: Symposium on Commemorating the 60th Anniversary of Japan-Indonesia Diplomatic Relations, organized by CSIS-GRIPS, Bali, Indonesia
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 本名純
2. 発表標題 Rival of Extra-judicial Killings as Governance: Jokowi ' s War on Drugs
3. 学会等名 第一回インドネシア研究懇話会・設立記念大会、京都大学
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 本名純
2. 発表標題 民主化定着期インドネシアにみるナショナリズムとグローバリズムの国軍政治
3. 学会等名 日本比較政治学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Jun Honna
2. 発表標題 Pilkada DKI and the Politics of Right-Wing Network Populism
3. 学会等名 Seminar: Rise of New Rise of New Politics in Indonesia: the 2017 Jakarta gubernatorial Election (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 本名純
2. 発表標題 ジャカルタ州知事選挙をめぐる政治と今後の国政
3. 学会等名 経済講演会、東京三菱UFJ銀行ジャカルタ支店主催 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Jun Honna
2. 発表標題 Civil-Military Relations in an Emerging State: A Perspective from Indonesia's Democratic Consolidation
3. 学会等名 International Workshop on Emerging States and a Crossroads (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 本名純
2. 発表標題 インドネシア・3年目のジョコウィ政権：政治と治安と外交安全保障
3. 学会等名 国際情勢研究所研究会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Jun Honna
2. 発表標題 The Evolving Transnational Crime in Southeast Asian Waters: Trends, Responses and Prospects
3. 学会等名 2017 Taiwan International Symposium on Regional Security and Transnational Crime, organized by the Investigation Bureau, the Ministry of Justice (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 本名純
2. 発表標題 民主化定着期インドネシアにみる反グローバリズムと右翼ポピュリズム
3. 学会等名 立命館大学「反グローバリズム研究会」
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Jun Honna
2. 発表標題 Politics of Urban Anti-Crime Policies in Southeast Asia: A Case of Jakarta 's War on Drugs
3. 学会等名 CSEAS Workshop on Metropolitan Politics in Southeast Asia (国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 Volker Grabowsky and Frederik Rettig (eds.)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Silkworm Books	5. 総ページ数 480
3. 書名 Armies and Societies in Southeast Asia	

1. 著者名 見市建・茅根由佳編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 176
3. 書名 ソーシャルメディア時代の東南アジア政治	

1. 著者名 Jun Honna	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 293
3. 書名 “Civil-Military Relations in an Emerging State: A Perspective from Indonesia’s Democratic Consolidation,” in Keiichi Tsunekawa and Yasuyuki Todo eds. Emerging States at Crossroads	

1. 著者名 Jun Honna	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 400
3. 書名 “Japan’s Post-Cold War Foreign Policy toward Indonesia,” in James D.J. Brown and Jeff Kingston eds., Japan’s Foreign Relations in Asia	

1. 著者名 Jun Honna	4. 発行年 2017年
2. 出版社 University of Hawaii Press	5. 総ページ数 351
3. 書名 “The Politics of Securing Khaki Capitalism in Democratizing Indonesia,” in Paul Chambers and Napisa Waitookiat eds., Khaki Capital: The Political Economy of the Military in Southeast Asia	

〔産業財産権〕

〔その他〕

立命館研究者学術情報データベース <a href="http://research-db.ritsumeit.ac.jp/Profiles/26/0002522/profile.html">http://research-db.ritsumeit.ac.jp/Profiles/26/0002522/profile.html</a>
---

6. 研究組織		
氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
オーストラリア	Australian National University			
インドネシア	University of Indonesia			